

敬老乗車証を守ろう！

京都市が『大改悪』に向け作業中。

敬老乗車証制度とは

「長年にわたり社会に貢献してこられた高齢者に敬老の意を表するとともに、様々な社会活動に参加し、生きがいつくりや介護予防に役立てていただくため、高齢者の福祉の増進に寄与すること」を目的に70歳以上の方を対象に創設されたものです。



「利用頻度に応じた負担に」変えようとしています

京都市は2013年10月に「今後の制度の在り方に関する基本的な考え方」を定め、「所得に応じた負担から、利用頻度に応じた負担にする」方針を決定しました。いま、京都市は、敬老乗車証のICカード化を含む大きなシステム開発を進めています。

何回分かの無料乗車はあるものの、乗るたびに100円程度払わなければならないというものです。これでは負担が増え、外出が減り、社会参加促進・健康増進・経済などの効果が大きく後退してしまいます。

例えば…

市バス1回100円負担だと、月8回分の無料券があったとしても、週2回利用される方で年間9,600円の負担に!! (100円×(16回乗車-8回無料)×12月)

気軽に「まちなか」へ出かけられるよう敬老パスの改善を



公共交通整備・充実は、高齢者の生活を支えるだけでなく、健康増進による医療費・介護費の削減、商店街や観光の振興など「にぎわいのあるまちづくり」につながる総合的な効果が見込める。高齢者が生き生きと気軽に外出し、社会参加が出来る手立てとして、敬老パスがある。しかし、改悪が進み、利用者が限られてきている。「歩けるまち京都」の実現を視野に入れ、もとのように負担を無くし、また市営交通に加えて民間バスにも使えるよう、敬老パス改善の英断が京都市に求められる。

土居靖範 立命館大学名誉教授